

体験記『シャクルトンの大漂流』ウィリアム・グリル/作 千葉茂樹/訳 岩波書店

シャクルトンの大漂流



生きぬくために大切なことは…?

1914年、アーネスト・シャクルトン率いる27人の隊員が小型船アンデラス号に乗って、南極大陸を横断する大冒険に出発しました。しかし、巨大な流氷に囲まれて、前進することが出来なくなってしまいました。ついには、アンデラス号が氷の圧力で破壊されてしまったのです。

その後も、何度もピンチを迎え、食料が減り、体調が悪化する隊員も出てきました。そこで、シャクルトンをふくむ3人が助けを呼びに行くことに…。残りの隊員は待つしかありません。

こんなにも厳しい状況にも関わらず、あきらめずに、たえしのぎ、南極大陸横断には失敗しましたが、なんと全員で生きて帰ることが出来たのです。救助を待つ隊員達が大切にしていたこととは一体何だったのでしょうか？人が生きぬくための教えが詰まった実話です。

物語『チョコレート工場の秘密』ロアルド・ダールコレクション2巻

ロアルド・ダール/著 クェンティン・ブレイク/絵 柳瀬尚樹/訳 評論社

甘くて、ビターなチョコレート工場へようこそ

チョコレートの魔術師と言われるウィリー・ワンカが経営する世界一巨大なチョコレート工場がありました。200種類以上の板チョコや、スマイル味のするマシュマロ、いつまでも味のなくならないチューイングガムなど、次から次へと変わったおかしを発明し、町の人々に人気。

そんなチョコレート工場に、招待されることになった男の子チャーリー。チャーリーは、チョコレートが大好きですが、家が貧しく、チョコレートを食べることが出来るのは、年に1度の誕生日だけだったので、工場の中に入れることに大喜びです。

工場の中には、チョコレートの川が流れており、その川を船に乗って移動します。おかしを作るための部屋や、機械がたくさんあり、あまいかおりが広がっています。でも、どうやら、楽しいだけではないようです…。ワンカが、子ども達を工場に招待したのは、ある目的があるようですよ。



舞台や映画にもなり、話題になっているこの機会に、原作を読んでみてはいかがでしょうか？

物語『ドアのむこうの国へのパスポート』

トンケ・ドラフト、リンデルト・クロムハウト/作 リンデ・ファース/絵 西村由美/訳 岩波書店

本を開いて、いろんな世界に行ってみよう



オランダの小学校4年生のクラスは、トム先生が本を読んでもくれる時間が大好きです。トム先生は、わくわくするお話を書くラヴィニア・アケノミョージョという作家がお気に入り、子ども達も、この作家に興味津々でした。そこで、作家に質問したいことを手紙に書いて届けることにしました。

すると、ラヴィニアから返事が届き、子ども達のなかから2人を家に招待してくれるというのです。その家には、コスモポリタン連邦という国につながるカギのかかったドアがありました。ドアの向こうに行くためには、パスポートやビザが必要なのですが、申請書に「正直に、また冗談めいた楽しい答え」を書かなければいけません。一生けん命考えて書いているうちに、クラスのきずなも深まっていったようです。さて、ドアの向こうに行くことはできるのでしょうか？

物語『飛ぶ教室』エーリヒ・ケストナー/作 池田香代子/訳 岩波書店

クリスマスに起きた奇跡の物語

ドイツの両親や家族と離れ寝泊まりする寄宿学校で、共同生活をして過ごす少年達の物語です。タイトルの『飛ぶ教室』とは、ジョニー少年が書いた劇のことです。地理の授業を現地で行うという内容で、飛行機に乗って、ピラミッド、北極、ついには天国にまで行ってしまいます。少年達は、この劇をクリスマス集会で上演するために、体育館でけい古をしていました。

すると、突然、体育館のドアが開き、ケガをした少年が飛びこんできました。話を聞くと、実業学校の生徒達が、少年の友達であるクロイカムを連れて行ったと言うのです。優等生のマルティンや、ボクサー志望のマッツ、憶病なウリー、詩人のジョニー、知識豊富なゼバスティアーン達は、同級生の救出に向かいます。少年達は、1対1の勝負や、雪合戦で勝敗

を決めることになりましたが、無事に同級生を救うことが出来るのでしょうか？寄宿学校の少年達は、それぞれ悩みを抱えているのですが、クリスマスにある奇跡が起きます。友達や、家族、先生の温かさを感じる事が出来る物語です。

